



ちとせ ふるさと散歩道

山形市千歳地区史跡マップ

スポーツの町ちとせ

千歳地区町内会・千歳郷土研究会

山形市千歳地区

千歳地区は市の東北部に位置し、馬見ヶ崎川の東側にあたります。明治22年「市町村制」により、長町と落合の両村が合併し、千歳村が誕生しました。その後、昭和18年に鈴川村と共に山形市に合併し、現在に至ります。現在千歳地区は、長町・落合町・沖ノ原・泉町の四町内で構成されています。地区内および周辺には、県立中央病院、山形済生病院、大型商店街、山形市総合スポーツセンター、山形国際交流プラザ（山形ビッグウイング）等の大型施設や福祉関係施設が多くあります。奥羽本線・仙山線等の交通の便もよく生活環境・自然環境にめくまれた地域です。



稱念寺（長町）



刈田神社（沖ノ原）



【アクセス】
・JR奥羽本線・仙山線「羽前千歳駅」下車
・山形自動車道「山形北」ICより車で5分



夜泣き地藏（落合町）



古川稲荷と榎の木（泉町）



山形市千歳地区 長町エリア

ちとせ

長町

長町の本通り（旧羽州街道）は、最上義光に仕えた長岡但馬守の屋敷跡のところで僅かに屈折している。その距離およそ一・七キロで、その両側に、文字通り長い町並が形成された。最上時代、ここに長い柄の槍を持った足軽が大勢住んでいたことから長柄町と呼んだのが長町に変わったという説もある。

1 つきやまどう
月山堂
見崎街道に「日の口」という地名があり、1本の笠松があった。ここに月山堂というお堂があり、最上時代、見張りの兵を置いて敵兵の来襲に備えたと伝えられている。その跡地に満月を形にした石碑が建てられた。

2 さかいだ
境田地区の毘沙門祠
沖は一面湿地帯であったが、沖より北の境田地区は地盤が固く、敵が攻めてくるとすればこの地が最も危険であり、300m毎にお堂をつくり、月山堂同様、見張りの兵を置いて毘沙門天を祀ったと伝えられている。

3 やくしどう しらいわぎみんしゅうえん
薬師堂（白岩義民終焉の地）
寛永15（1638）年7月21日、山形藩主保科正之により村山郡白岩領百姓36名が無残にも磔刑に処せられた地である。刑場付近にあった一基の祠を安置し、地域民を始め心ある人たちが菩提を弔っている。

4 **如意輪観音堂**
長寿寺といわれ老齢に達した稱念寺住職の隠居地であった。本尊の如意輪観世音菩薩は一切衆生の願いを叶え、苦しみから救ってくれる。別名、「コロリ観音」と呼ばれている。堂内には最上33番札所の観音像も安置され、安政2（1855）年3月17日長町の心ある方々より寄進された。

5 くまのじんじゃ くぬぎ きよぼく
熊野神社と柵の巨木（保存樹）
熊野神社は延文2（1357）年頃、山形の祖斯波兼頼が山形城北郊の鎮守として勧請したと伝えられている。天正年間、山形城主最上義光が家臣の落合伯耆守を落合村に封じた。伯耆守は殊のほか敬神の念が厚く大いに奉讃に努めたといわれる。柵は樹齢約500年で、幹回りは2m83cm、樹高は約20mあり、山形市内では珍しい巨木である。神社本殿の北西の風除けにもなっている。

6 くまのさんしゃだいごんげんひ
熊野三社大権現碑
寛政3（1791）年に建てた石碑で、三社とは熊野本宮大社、速玉大社、那智大社のことであり、この三社は全国の熊野神社の総本宮である。当時、神社参道を造るのに関係した人々が建立したといわれ、石碑の裏には関係者の名前が刻れている。

7 にわたりごんげん
荷渡り権現
昔、野呂川はもっと幅が広く大きな沼のようになっていたので、青柳や北河原方面へ行くにはここから渡し舟が出ていた。人々や荷物を無事に運べるようにとここに荷渡り権現を祀った。

8 ほうさいてんだいじょうみょうてんくようどう
奉再奠大乘妙眞供養塔
東西北共1000間の長町館があった。館の中央部が千歳篠田病院の西側あたりといわれている。館解体の際に供養のため「奉再奠大乘妙眞」の文字が彫られ、正徳4（1714）年2月15日に建立された。

9 **馬頭観世音碑**
弘化3（1846）年に五穀豊穰・天下泰平を祈願し建立した碑と伝えられる。また、十字路（昔は丁字路）の角に位置し中野や見崎への道しるべとなっていた。

10 よだれ地藏
旧13号線長町通り脇にあり、天明6（1786）年に建立された。口許の所がぬれたように黒く変色し、まるでよだれをたらした様に見える。昔子供のだれがひどく困ってお参りするとそれが治ると言われ厚く信仰された。

11 やんめ地藏
羽前千歳駅前日の出自動車工場の裏には青柳への旧道が今も残っているが、その路地の脇にある。「やんめ」とは「脂目」がなまったもので、明和4（1767）年、長町の名主が施主となり、眼病治療を祈願し建立された。

12 さんえいざんしょうねんじ
**三栄山稱念寺
あみだによらいぞう
阿弥陀如来像**
おみきすず
稱念寺は浄土宗の寺院で総本山は京都知恩院である。永和2（1376）年、足利將軍家臣渡辺左近将監頼俊の三男が東通りに小庵を造り修行し、稱念と称した。現在地に建立したのは永正16（1519）年の春で、現在の本堂は明治43年北山形の月山寺を解体移築したものである。本尊の阿弥陀如来像は開山稱念上人以来の南北朝時代の作と伝わる。本堂の須弥壇に小さな厨子があり、その中に高さ12cmのおみきすずが入っている。それは江戸時代末期、唐松観音の化身である男の子から頂いた徳利で、この徳利から泡のようなものが吹き出し、なめると病人が回復したと伝えられている。

13 にしうら こうしんどう
西浦の庚申塔
長町の旧13号線西側の宅地開発が進んだ時、二基の庚申塔が現在地に並んで祀られるようになった。昔は村人の信仰を集め、生活に深く関わっていた。庚申塔は街道沿いや村の境目に建てられた。（30番の庚申塔参照）

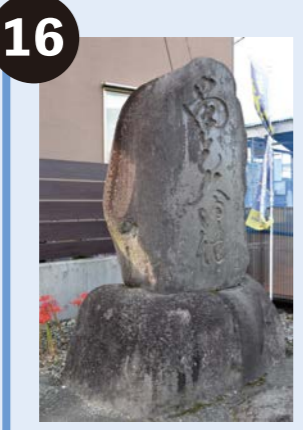
14 ながおかたじまのかみやしきあと
長岡但馬守屋敷跡
最上義光時代、山形の北の防御を長岡但馬守（義光没後殉死した重臣）と落合伯耆守に担わせた。長岡但馬守の館（屋敷）は現在の千歳篠田病院の近くに築造され、街道をその西側に通して間口12間、奥行25間の家臣団の屋敷を配して街並みを作った。この様に道に沿った長い屋敷町であるところから長町と称した。

ちとせ

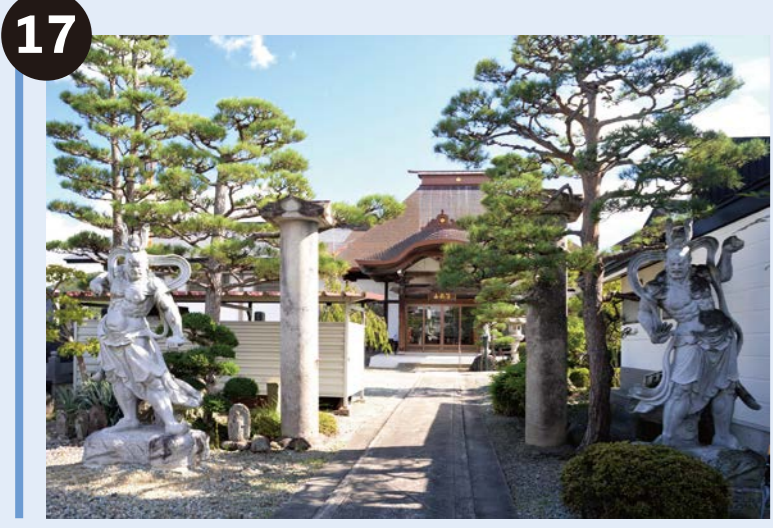
山形市千歳地区 落合町エリア



15 **よな じぞう 夜泣き地蔵**
宝暦8(1758)年、旧二口街道(落合)に建てられた身の丈八尺五寸(2.5m余)の大きな地蔵様。子供の夜泣きに困り、お参りすると直るといふ言い伝えのある霊験あらたかな地蔵様。



16 **あまごいだんみょうじんひ 雨乞大明神碑**
今から170年ほど前、日照りに困った民を救うため、泉福寺の住職が畑谷の大沼近くのお堂にこもり、七日七晩雨乞いの祈祷をし人々を救った。後に碑を建てその徳を称えた。



17 **れいきさんぜんぶくじ 霊亀山泉福寺**
曹洞宗の寺院で、総本山は永平寺である。諸国行脚の旅の僧が北河原内に草庵を結んだのが始まりだったが、一帯は度々水害に見舞われる土地だったので、寛永16(1639)年現在地に移転した。本尊は釈迦牟尼仏である。



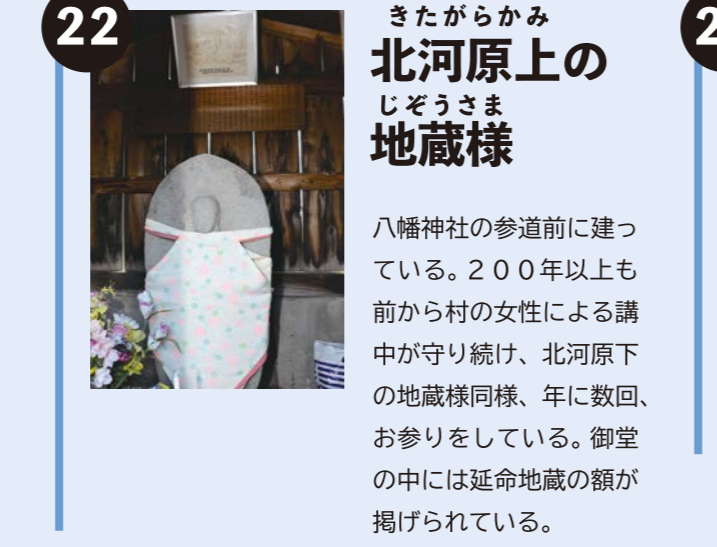
18 **さいねんじ 西念寺**
落合町の西念寺は以前「西念坊」と呼ばれていた。菩提寺が遠方であった檀家が共同の集会的な物を建てたのがはじまりであったという。当寺には「身体借用証」の扁額がある。



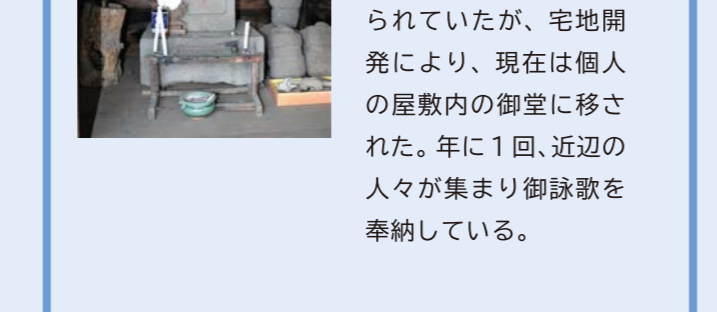
20 **おちあいだん 落合壇**
八幡神社の東側にある小高いやがの中程に石造りの五輪の塔などが建っている。一帯は壇と呼ばれ大切に守られてきたが、文書や口伝も伝わらず、由来などについてはよくわかっていない。



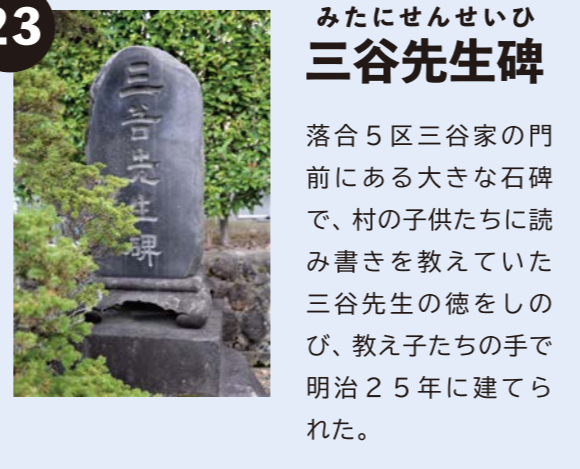
21 **はちまんじんじや おおとこのかみひ 八幡神社と大地神碑**
落合町の八幡神社は、その昔「大地神」と称し、歴史はかなり古い。明治維新の神仏分離令によって「八幡神社」と改称した。現在の本堂は天保12(1841)年に再建されたものである。参道入口の「大地神」の石碑は寛政元(1789)年大地神堂建立時のもので、通常、「づんづんさま」と言われている。



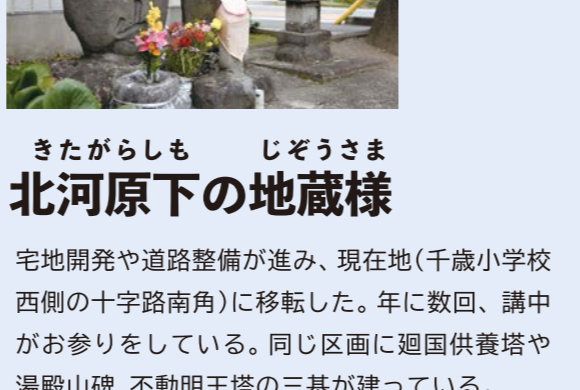
22 **きたがらかみ 北河原上の じぞうさま 地蔵様**
八幡神社の参道前に建っている。200年以上も前から村の女性による講中が守り続け、北河原下の地蔵様同様、年に数回、お参りしている。御堂の中には延命地蔵の額が掲げられている。



24 **きたがら 北河原の かのんさま 観音様**
元は地区の道路脇に祀られていたが、宅地開発により、現在は個人の屋敷内の御堂に移された。年に1回、近辺の人々が集まり御詠歌を奉納している。



23 **みたにせんせいひ 三谷先生碑**
落合5区三谷家の門前にある大きな石碑で、村の子供たちに読み書きを教えた三谷先生の徳をしのび、教え子たちの手で明治25年に建てられた。



25 **きたがらしも じぞうさま 北河原下の地蔵様**
宅地開発や道路整備が進み、現在地(千歳小学校西側の十字路路角)に移転した。年に数回、講中がお参りしている。同じ区画に廻国供養塔や湯殿山碑、不動明王塔の三基が建っている。



26 **かったじんじや 刈田神社**
刈田神社は、刈田嶺神社の分社で、「蔵王権現社」と称し水を掌る神として尊崇されてきた。創建時の社殿は宝暦7(1757)年に造営されている。拜殿前には安永3(1774)年建立の蔵王大権現碑などの石碑が建ち並んでいる。



27 **おちいなり 尾鎮稲荷**
伏見神社の系列の稲荷様で、池野家が旧暦の初午の日に例大祭をとり行っている。拜殿の額には「正一位尾鎮稲荷大明神」とあるが、何時、どういついつて勧請したのかはよくわかっていない。



28 **むりょうあんろくじぞう 無量庵六地蔵**
人は死後、生前の様々な行いにより地獄道、餓鬼道などの六つの世界に分けられる。どの世界でも救いの手を差し伸べるのが六地蔵で、六文銭はその六地蔵への賽銭である。この六地蔵は昭和44年、宅地開発により無量庵に移された。



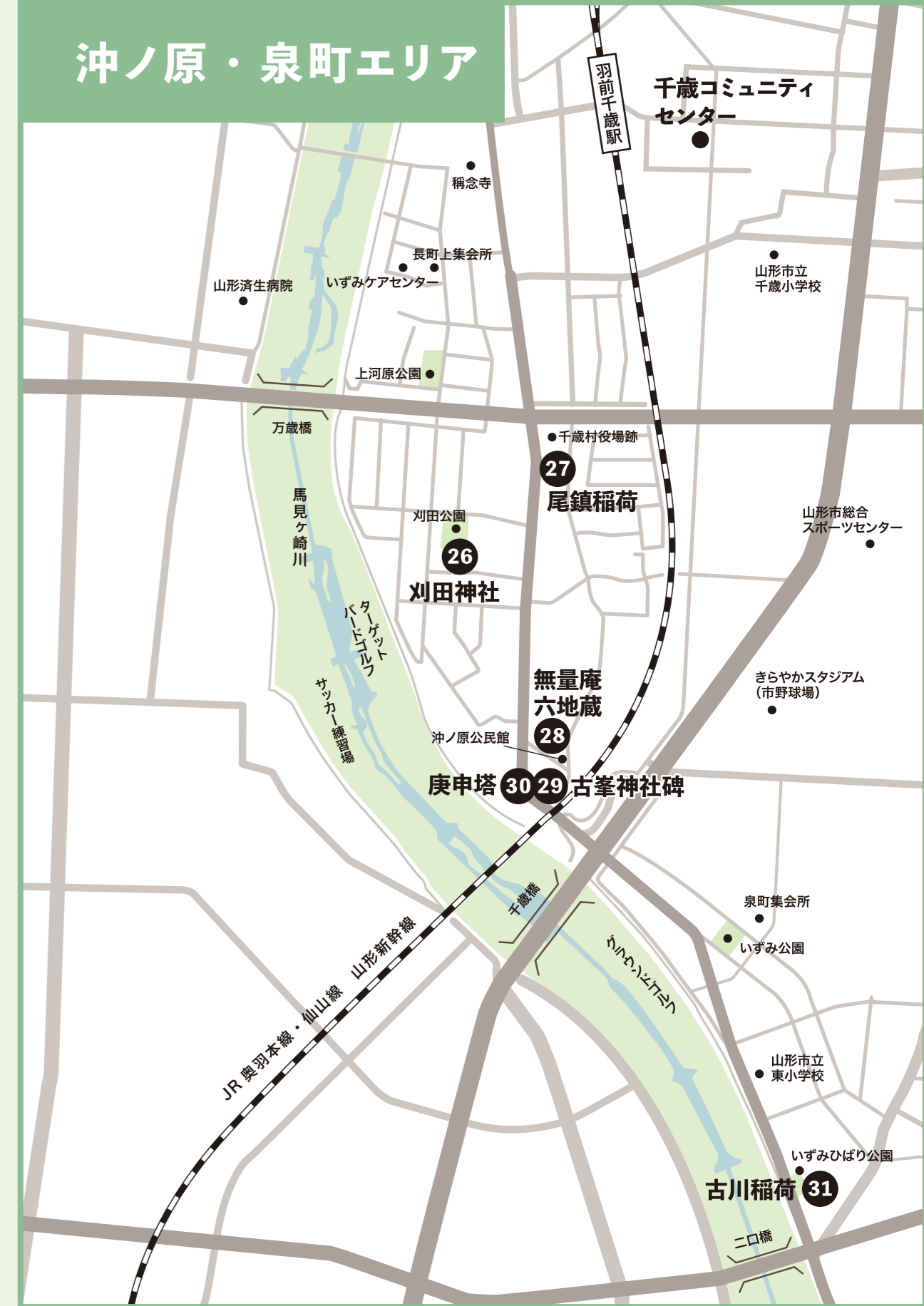
29 **ふるみねじんじやび すいてんくうひ きんかさんび 古峯神社碑 水天宮碑 金華山碑**
古峯神社本社は栃木県鹿沼市古峯ヶ原にあるので「こぶはらさま」と愛称されている。日本武尊を祀り、火防と農業の神として信仰を集めている。この古峯神社碑は講中により明治29年に建てられた。左隣に水害が起きないように祀った水天宮碑と金運が開けることを願う金華山碑がある。



30 **こうしんとう 庚申塔**
これは延享5(1748)年、沖ノ原庚申講中が建てたものである。庚申講とは庚申の夜に体から抜け出した三尸虫が天帝に罪を告げその人の命を縮めるので、青面金剛に祈りを捧げ当夜は眠らずにいる信仰仲間のことで、各地に庚申塔が建てられた。



31 **ふるかわいなり 古川稲荷**
江戸末期、泉町3区鈴木家の先祖が落合町から当地(字河原)に遷座した。以来鈴木家を別当に8人の講中により守られてきた。昭和33年区画整理が完了し、泉町として発足した際、住民との話し合いが持たれ、拜殿を区の集会所として活用することが決まり、所有権が区に移譲された。別当は現在も鈴木家が担っている。境内の木の樺は市の保存樹に指定されている。



山形市千歳コミュニティセンター
〒990-0075 山形県山形市落合町1087-1
電話 023-622-2860 Eメール chitose@mymy.jp
この資料は千歳コミュニティセンターのホームページでもご覧いただけます。

